

都市構造可視化の活用



京都府 八幡市 都市整備課

1. 課内での情報共有

課内の職員に対して、都市構造可視化計画ウェブサイトや操作方法を紹介



- ・都市構造可視化計画ウェブサイトからのデータダウンロード、Google Earthへの表示
- ・3Dマウスを操作し、どのようなことに活用できるか考えました。

2. 課内の情報共有での反応（気付いたこと）

利用した感想や活用方法について意見を聞いてみました

○感想

- 都市計画分野で可視化は有効に使えるそう。
- 地域住民や事業者に説明するには分かりやすい。
- 事業を検討する際の根拠資料として利用できるのではないかと。
- 分野の異なるデータをクロスして表現できるので、庁内横断的な政策提案のきっかけになる。

○活用について

- サイトのデータ以外で可視化できたら面白そう。
市独自調査データの可視化（空き家データなど）
- 本市は面積が狭く、メッシュをより細かく設定すれば、より詳しく課題等が見つかるのではないかと。
- 交通量のデータなどで人の動線（流れ）も可視化できたら面白そう。

3. 庁内への共有（幹部職員向け）

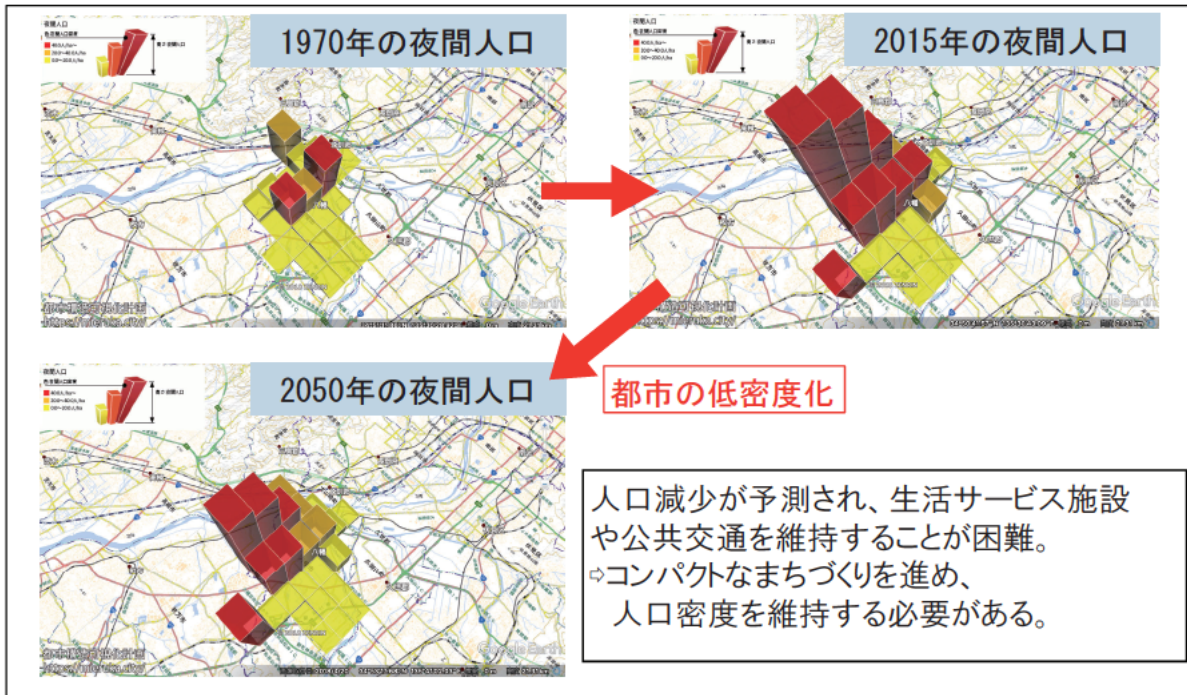
各部幹部職員に対し、都市構造可視化について説明



- ・ 立地適正化計画策定にあたり、関係部署との協議・調整を行うため、各部幹部職員を構成員とする庁内会議の場を設置
 - ・ 各部門別の施策の立案・計画について、都市構造可視化の利用の検討をお願い
- ⇒医療・福祉施設が不足しているエリアがあり、施設誘導施策に活用を検討してみたいなどの意見があった。

4. 立地適正化計画策定庁内会議での活用

立地適正化計画策定の目的や背景の説明

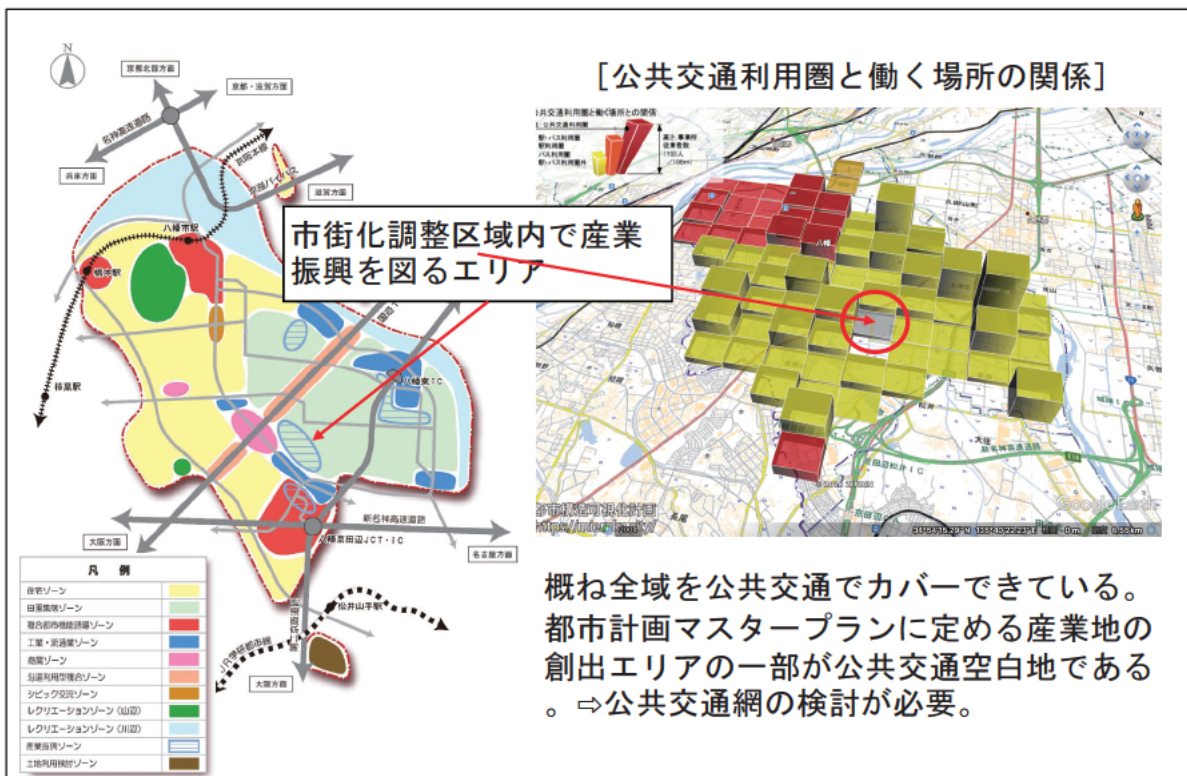


i-都市交流会議2020

補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

5

5. 都市計画マスタープランの実現に向けて



i-都市交流会議2020

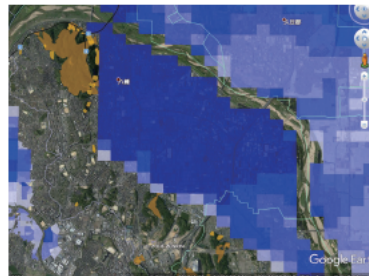
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

6

6.まとめ

○今後の活用

- ・都市計画審議会での活用
- ・都市計画決定における住民説明会での活用
- ・立地適正化計画の策定での活用
居住誘導区域、都市機能誘導区域、
誘導施設の設定に活用
土砂災害警戒区域
浸水想定区域
- ・立地適正化計画の住民説明のツールとして活用



○課題

- ・自由にインターネットが使えない環境
仮想空間でインターネットの利用は可能だが、GoogleEarthProのダウンロードが不可能
- ・GISに慣れること、使いこなせること

京都府八幡市

都市の紹介

位置・概要

- ・京都府南西部にあり、京都市と大阪市の中間に位置する。
- ・木津川・宇治川・桂川の三川が合流する地点に立地。
- ・古くより石清水八幡宮の門前町として発展。

人口：約71,000人
面積：24.35km²



背割堤の桜



石清水八幡宮



三川合流域



流れ橋と浜茶の風景